

董事長の経営哲学はわたしにとって百戦百勝の強い武器

2011年4月11日のことですが、わたしは副総経理からの指示でイスラエルの会社0bjetの上海事務所へ、金型加工の業務に必要な3D金型プリンターシステムの視察に副総経理に同行しました。この設備はとても高価で、その購買交渉はとても重要です。わたしは大きなプレッシャーを感じました。「会社のために少しでも安く購入したい。かといって、品質やサービスがお粗末では、これも困る」。過去の経験からすると、わたしはプロのバイヤーではないので、こうしたケースでは往々にして市場価格で契約させられてしまうことが多かったのです。では、どうすればこの重要な任務を達成できるのか。こんなとき、もし7年前この会社に入る前の自分だったら、どうすればよいかわからなかったでしょう。でも、今は違います。わたしには百戦百勝の強い武器、董事長の経営哲学があるからです。



合璧の企業文化をよく理解してくれる馬経理と記念撮影

今回の訪問で、わたしは直接商談にかかることをしませんでした。まず、先方に会社の概況を紹介しました。会社発展の歴史や経営理念、経営の特色などです。先方の馬経理は会社発展の歴史にとても敬意を払ってくれました。特に董事長が無からはじめて今日のように会社を発展させたことについては簡単なことではないといいました。経営理念についても称賛をもらいました。このあとわたしは「企業禪師」を見せました。先方ははじめ少し戸惑った素振りでしたが、ページをめくっていくにつれ、馬経理はまた称賛をくれました。そして董事長は偉大な哲学を持った禪師だといいました。中でも董事長の処世哲学や古代の三大文明の引用、感謝の心で報いること、真善美、共生共栄、天人合一など、数々の哲学的思想に対しては指を立てて称賛しました。わたしはさらに「合璧流」を見せました。馬経理は、合璧の「関心、關懷、開照（気配りと思いやりで接する）」という考えは単なるスローガンではなく実践を伴ったもの

だといひ、忙しい中、董事長が従業員ひとりひとりにまで気を配っていることについて、信じられないことだと感じました。その結果先方は、合璧は信頼に値する企業であり、仕入先にも顧客にも社会にも貢献する企業だと認めてくれました。そして今回の訪問目的であった3Dプリンターを特別価格で販売することに合意し、最後にいっしょに記念撮影までしました。

今回、わたしは董事長の経営哲学を使ってビジネスで成功しました。董事長の経営哲学はわたしにとって百戦百勝の強い武器です。

最後にひとこと。偉大な董事長にもう一度感謝したいと思います。

上海合璧設計課 上級エンジニア 施冉

小さなところに見られる智慧

リリリ……。 「您好！合璧です。范と申します。だれにお繋ぎしましょうか。」

電話が鳴ると、わたしは受話器をとって慣れた口調で自信たっぷりにこういいました。口元を少し引き締めて、はっきりと元氣な声で、しかもフレンドリーに。わたしがいい終わると、受話器の向こうではしばらく間があって、それから夢から覚めたように先方は「您好。〇〇さん、お願いします」といいます。簡単な電話取次ぎの会話ですが、実はこの中には多くの意義が含まれているのです。

以前、わたしたちは電話に出たとき、「您好。合璧です」というだけでした。しかし、小さなところまで気にする董事長はそれではだめだといひ、もう少しよい応対方法を考えるようにいいました。そこでいろいろな案を出し、これらについて張経理が時間を計ったり、わたしたちが実際に試してみたりした結果、最終的に前述の内容に決まりました。

しかし、この応対をするのが決まってきたとき、わたしはその意図がまったくわかりませんでした。どうしてこんなに長ったらしいことをいわなければならないのか。相手は最後まで聞かずに話し出すし、もう一度元にもどせないかという期待を抱きながら、わたしたちは代表を選んで董事長に電話の応対を変えたあとの現状を告げました。しかし、董事長はこの要求を頑として受け入れませんでした。全従業員、特に事務所勤務の者に今回決まった電話応対の方法を徹底するよう命じました。これによって従業員のレベルが上がるといひます。わたしたちはこれに従いましたが、最初は強制されているようで、受身的な不安な対応でした。ところが、我慢強く続けて慣れてくると、だんだん自信が湧いてきました。今では董事長の考えがよくわかります。こうした電話の応対が会社の心を相手に伝えるからです。



創業40年の歴史を持つ大きな会社にとって、電話の応対なんて砂漠の中の一粒の砂のように取るに足らないことかもしれません。しかし、その一粒の砂が時には人の目の前に入る前に進めなくなってしまうことでもあります。そんな小さな砂を董事長は見つけ出して取り除いたのです。こうした小さなところまで見られる董事長の智慧は他人には想像もつかないものです。

古くから「難しい事は簡単な事から始めよ。大きな事は小さな事から始めよ」、「千里の道も一歩から」といひます。どんなことでも小さなことでもできています。だから、小さなことから始めなければならないのです。日本文化の影響を強く受ける董事長は小さなことを疎かにすることはありません。それに、目標の途中で止めてしまうこともありません。張経理が以前朝礼でこういいました。「何がむずかしいかと思ったら、簡単なことをきちんとやることです」。とても意味の深い言葉だと思います。どんなに遠い目標でも、どんなに大きな夢でも、まずは最初の一歩から。こうして成功の階段を上り出すのです。

わたしは合璧という大家族の一員となって以来、その文化の薫陶を受け、董事長の教えの下で過去のよくない習慣を改めてきました。きちんとした食事の作法や事務所での礼儀を身につけ、「發上等願、結中等緣、享下等福；擲高處立、尋平處住；往寬處行（目標を高く持ち、普通の人たちとの縁を大切に、簡素な喜びに幸せを感じる。広い視野で安定を求めれば事は成しやうい）」という考えを学び、寛大な心や縁の中にも感激を味わうことを知りました。そして、きちんとした電話の応対も学びました。合璧の中で、わたしは小さな苗です。常に温かい家族から養分をもらって、いつか大きく育つのです。

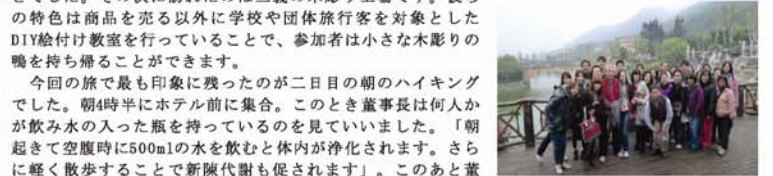
大きな愛を持った董事長の細かい指導や「関心、關懷、開照（気配りと思いやりで接する）」に満ちた同僚の努力があるかぎり、合璧は今後も輝き続けることと思います。合璧という家族は永遠に榮えていくと思います。

上海合璧電子电器有限公司
中国201-805上海市嘉定区安亭鎮安曉路318号
TEL:+86-21-5950-5466

上海合璧生産管理課 范月娣

偉大な記録を作る旅

2011年3月18日と19日の二日間、合璧は「偉大な記録を作る旅」に行きました（「偉大な記録を作る旅」とは普通の旅行と違って、その中で何かを学んだり、体験したり、記録に残ることをしようという旅行のこと）。最初に訪れたのは4代にわたって40年間続いているという后里のサクソフフォンメーカーです。彼らの特色は手作業にこだわっていることで、細かな部品ひとつひとつの組み立てや音の調整を微妙な手の感覚を頼りにやっています。社長の話では気持ちよめ込めないとよいものはできないとのことでした。その次に訪れたのは三義の木彫り工場です。彼らの特色は商品を売る以外に学校や団体旅行客を対象としたDIY絵付け教室を行っていることで、参加者は小さな木彫りの鴨を持ち帰ることができます。



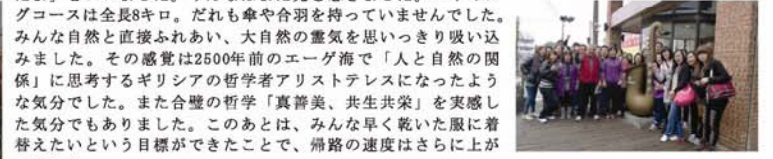
わたしたちはみんな家族

今回の旅で最も印象に残ったのが二日目の朝のハイキングでした。朝4時半にホテル前に集合。このとき董事長は何人かが飲み水の入った瓶を持っているのを見ていました。「朝起きて空腹時に500mlの水を飲むと体内が浄化されます。さらに軽く散歩することで新陳代謝も促されます」。このあと董事長について準備体操、そして出発しました。

コースは上ったり下ったりが続きます。はじめ何人かの同僚は遅れがちでした。董事長は「関心、關懷、開照（気配りと思いやりで接する）」の気持ちで列の前後を行ったり来たりしながら、遅れがちな同僚にスピードアップするよう促したり、みんなを鼓舞したり、正しい呼吸方法を教えたりしました。

このときはまだ夜明け前で沿道には土地公（その土地を守っている神様）の廟と5匹の野良犬が吠えているの見えるだけで、旅行者も現地の早起きの人たちもいませんでした。土地公の廟を過ぎるとき、董事長がいいました。「土地公はわたしたちが頑張っているのをちゃんと見てるんだよ」。これに刺激されたかのように、みんなの足取りは軽くなり、競って前を行くようになり、笑いついばいになりました。

帰る途中、急に雨が降り出しました。わたしたちは先を急ぎましたが、雨は次第に激しくなりました。董事長は土地公の廟で雨宿りすることに決めたので、そのついでに土地公に雨が止んでくれるようお願いしました。するとどうでしょう。僅か2分後に本当に雨が小降りになったのです。驚くわたしたちに向かって、董事長は「きっと土地公がわたしたちの精神に感動したからだよ」といいました。みんなはまた先を急ぎました。ハイキングコースは全長8キロ。だれも傘や羽布を持っていませんでした。みんな自然と直接ふれあい、大自然の靈氣を思い思い吸い込みました。その感覚は2500年前のエーゲ海で「人と自然の關係」に思考するギリシアの哲学者アリストテレスになったような気分でした。また合璧の哲学「真善美、共生共栄」を实践した気分でもありました。このあとは、みんな早く乾いた服に着替えたという目標ができたことで、帰路の速度はさらに上がりました。



7時に朝食を食べました。屋外のきれいな風景の中で、自然にふれながら約2時間。このときの素晴らしい感じはことばでは表せません。

今回の旅で偉大な記録ができました。朝4時半、みんなそろっての運動。自然とのふれあい。チェックアウトの際の部屋の整理整頓。これらに対して旅館のオーナーは驚いて、「こんな会社は世界中探したってないよ」と褒めてくれました。これらは董事長が日頃から教える「習慣」の産物です。わたしたちは旅館のオーナーに「合璧流」を1部プレゼントしました。合璧の企業文化を知ってほしかったからです。

9時、わたしたちは出発しました。董事長の人生哲学「広いところに向かって」と同じように。わたしは今回のように絶えず多くの偉大な記録を作っていきたいと思ひます。そして、そんな自分が合璧の一員であることに誇りをもっていきたいと思ひます。

一枚の切符

台北合璧 洪小瑛

去年の春節、帰省の切符がこんなにも手に入らないのかとはじめて実感しました。肌を刺すような冷たい風に吹かれて一晩、切符を求めて駅に並びましたが、切符は買えませんでした。もうあきらめよう。そう思ひながらも、故郷の両親から「いつ帰ってくるの？」という電話をもらおうと、辛くて辛くて。このときほど一枚の切符がほしいと思ったことはありませんでした。

わたしが切符が買えないと焦っていたとき、もうひとり、わたしのために焦ってくれた人がいました。彼女は毎日わたしに切符は買えたと聞ききました。それは仕事で本当に忙しかったときも同じです。そして、わたしが半ばあきらめかけたときでも、あらゆる關係を使ってわたしが帰省するための汽車の切符を探してくれました。その姿を見て、わたしは少し申し訳ない気持ちになりました。というのは、多くの人たちと同じように、わたしも年末に帰省したらそのまま仕事を辞めてしまおうと思っていたからです。わたしは、彼女がわたしに辞めてほしくないことを知っていました。にもかかわらず、わたしが帰省できるよう全力で努力してくれたのです。このときわたしは決めました。正月が終わっても必ず帰ってこよう。彼女がわたしを必要としているときに去ってしまったはいけなかったのです。わたしのために切符を探してくれた彼女、それは黃靜靜組長です。

今回わたしを感動させたのは一枚の切符です。しかし、合璧にはこのほかにもわたしを感動させることがたくさんあります。入社間もないころ、仕事が終わってから「痛くないか」とわたしの手を摩ってくれた先輩。重い台車が押せないとき、手伝ってくれた同僚。毎気よく検査のやり方を教えてくれた先輩。まだまだたくさんあります。わたしはこれらを忘れないためにノートに書きました。

ある日、街でバナナの皮を踏みそうになりました。わたしはすぐに拾ってゴミ箱に捨てました。このとき思ったのです。わたしを感動させるのは人でも事でもない。それは合璧に培われた企業文化なのだ。わたしはその影響を受けて変わりました。だから感動はいつもわたしのそばにあるのです。

上海合璧製造課 毛金姣

台壁は我等温毛りの家；我は台壁を愛し、台壁は我を愛する；關心關懷關照 同心同歩同調！